九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.359
2021(令和3)年 4月20日(火)発行

コロナ対策の基本は"検査"と"隔離"なのに 現在、英国型など3種の変異株が猛威を振るっていますが、日本政府や厚労省は五輪開催のためか、今もPCR検査を増やそうとせず、ワクチンも輸入に頼り、安倍・菅政権や厚労省の官僚たちの責任は重大です。一方で、広島は280万県民に「いつでも・誰でも・何度でも・無料」でPCR検査をスタート。福島の内堀雅雄県政は何をやっているのでしょう。

東日本大震災から10年⑨ 会員さんの"新聞投書と記事"

◆浪江町津島出身の屋中茂夫さん(会員)は、現在郡山市に暮らす◆屋中さんの津島の実家(佐藤家)は立派な古民家で、それが移築されて日本テレビ「ザ!鉄腕!DASH村」の舞台になっていました◆現在も津島地区は帰還困難区域指定で、いつ戻れるのか見通しは全く立っていません。

被災地の裏見て住民に寄り添え

郡山市・犀中 茂実(無職 68)

久しぶりに浪江町の街中を散策した。にぎわいを見せていた駅前通りや新町通りには、人の姿が見られない。信号待ちをしていた車三台のみ、見掛けた。歩道の枯れ草がやけに寂しさを増す。

先日、東日本大震災から十年を前に、菅義偉首相が浪江町をはじめ一市二町を訪問した。「帰還困難区域は、たとえ長い年月を経ても、将来的に全て解除する」。トリチウムを含む処理水の処分は「適切な時期に、政府が責任を持って処分方針を決定する」と従前通りの答えにとどまった。

復興した場所を視察することは、これまでの政策評価をする上では大切なことである。しかし東京電力福島第一原発事故により、帰還困難区域に指定され、十年を経ても復旧すら手付かずの場所がある。この地域を視察しておくことも、今後の復興政策を推進する上で重要ではないかと思う。

限られた時間の中での視察訪問だとは思うが、被災地の〝裏の面〟にも足を踏み入れ、現状を見てほしかった。それが真の「住民に寄り添った」政治につながるのではないだろうか。

▲2021年3月22日『福島民報』投書

▼2021年3月11日『朝日新聞』大震災10年特集の投書

Voice 声

東日本大震災10年

今も続く「被災」現地案内し説明

無職 山崎 健一(福島県 75)

自宅は事故の福島第一原発から北へ25㌔の南相馬市にあった。1歳の孫を連れ神奈川県に4年近く避難、その後、福島市に移住した。

避難先ではさまざまな方と出会った。被災地の福島県浜通りを見学したいという希望が出て数人を案内すると、次々依頼がきて、10年間で53グループ、約千人をガイドした。

放射線量を測定しつつ、いわき市から国道6号を北上。フレコンバッグの山に嘆息し、バリケードで閉ざされた民家や廃炉作業中の原発を遠望、全児童が津波から無事逃れた浪江の請戸小学校や飯舘の復興の様子も案内した。原発事故の甚大さや罪深さ、被災地の悲惨さを伝えた。

でも、次第に説明を変えた。福島だけの過去の話ではないのだ。大地震も原発事故も日本中どこでも、いつでも起こり得ること。震災時に発令された原子力緊急事態宣言は今も継続中であること。そのことを忘れてはいないかと問うようになった。

コロナ禍の終息も大事だが、原発事故の被災民として、再びの地震や津波に油断せず、廃炉の工程を厳しく監視し続けようと思っている。

▼2021年3月25日『東京新聞』「こちら特捜部」より(一部)

収束見えぬ福島第一
福島の被災者悲痛

10年前発令の「原子力緊急事態宣言」を忘れたかのように、聖火リレーが開始される。南相馬市から避難して郡山市で暮らす**大須賀芳雄さん**は市内の放射線量の測定を続け、その高さを警戒し除染を求めている。「東京五輪に反対ではない。でも政府は復興五輪を名乗るなら福島の将来を担う子どもたちの健康を守ることこそ考えてほしい」と話す。

また、南相馬市から横浜市に避難して「福島原発かながわ訴訟」の原告団長の**村田弘さん**は「国家公務員住宅に住んでいた避難者の中には立ち退きを迫られ、暮らしに困る人もいる。聖火リレーどころでねぇという気持ちだ」と怒りをにじませた。

(記事は一部。
大須賀さん村田さんは本会会員)

大震災から10年⑩

会員さんの“俳句”

2021年3月21日『河北新報』俳壇に掲載された作品

三月　中村　晋（福島市）

三月や十日も常の日にはあらず
水に声火に声三月十一日
空に鳥流れて人は雛を流す
蛇出でてフクシマという穴に光る
黙禱に三月くぐもり鳴く雉鳩（きじばと）

■中村晋さん（会員）は、金子兜太氏に師事した俳人、高校教員。2005年福島県文学賞俳句部門正賞受賞。09年海程新人賞受賞。13年海程会賞受賞。

大震災から10年⑪

「震災絵日記」朝倉悠三 原画展
～東日本大震災から10年を振り返る～

○2021年2月27日（土）～5月9日（日）
○さいたま市立漫画会館　<入館無料>
さいたま市北区盆栽町150　TEL048－663－1541

◆朝倉悠三さん（会員）は大震災から約8年間毎週日曜日の『福島民報』に、「震災絵日記」を描き続け大好評でした。2019年9月20日に逝去されますが、作品は永遠です。

「鈴木安蔵を讃える会」会員118名に

○憲法学者鈴木安蔵を顕彰し、小高区の旧宅を保存、活用するための「安蔵を讃える会」は、会員が118名（4月20日現在）になりました。○『福島民報』の2020年12月30日付で「会」の紹介記事が、今年1月28日の論説では「鈴木安蔵の顕彰活動・小高の活性化につなげよ」と大きく報道されました。会員さん募集中。入会のご協力をお願いいたします。

今も原子力緊急事態宣言は発令中です！

●10年前、原発事故の3月11日午後7時3分、当時の民主党政府は「原子力緊急事態宣言」を発令しました。**<右写真>**は発令直後の枝野幸男官房長官（当時）ですが、私たちも政府もすっかり忘れています。発令中なのに“アンダーコントロール”とウソで招致し、またコロナ禍の中、東京五輪など開催できるのでしょうか。

≪事務局より≫

コロナ感染防止のため、残念ですが今年も総会開催は中止とさせていただきました。「総会資料」は6月中に、会員の皆さまに郵送する予定です。ご理解ください。

会報No.354～359で、大震災から10年を考えてみました。どうだったでしょう。

この会報の編集終了の直後、**「4月21日朝、若松丈太郎さん(85)が逝去された」**の知らせに愕然としています。心からご冥福をお祈り申しあげます。

「はらまち九条の会」事務局
○会長：平田慶肇　TEL(0244) 24-1211
○事務局長：早坂吉彦 TEL090-2975-2508
○事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453　Eメール：yamazakiken1@gmail.com
○会計：井上由美　〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内　TEL22-7511・FAX26-0892
○石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037　○番場恵子 TEL22-0715　○大浦祥見 TEL24-0704
○志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524　○若松麟二 TEL23-5732　○田中徳雲（小高区）